

2018年(平成30年) 6月市議会報告

「人生の終盤において、市にこんな目に遭わされるとは思わなかった」

水野：移転した世帯に対し、説明などのために訪問した1世帯当たりの平均回数と議員時間数は？

そのうち、市の職員が同行した平均回数と時間数。また、職員だけの訪問は？

市長：権利者ごとに、すべての説明回数や、訪問回数、時間数を把握していないので、平均の回数や時間数は集計していない。

水野：対応した件数や時間を把握していないとの答弁だが。本当にそうなのか。どのような意見があり、どのような答えをしたか、訪問記録はないのか？

石川：全ての記録を残していないので、日数とか平均は集計は出来なかった。
部長

水野：データを取っていないから検証のしようがないが、地権者は泣きの涙ですよ。
「人生の終盤において、市にこんな目に遭わされるとは思わなかった。」これは当に、この事業が始まった時に心配をする声が上がった事が現実には起きている。山崎議員の質問にもあったが「公社職員の心ない発言で心が折れた」と言う。だが、把握していない。そう答えた、違いますか？

石川：決してそのようなことはないと回答している。

水野：市の職員が同行したかどうか聞いている。それもデータがない。誰が責任を持って説明をして、事業を進めているか、検証のしようがない状態で事業が進んでいる。そうは思いませんか。

水野：公社の職員だけで行っている事はあるか、無いか。

石川：ある。

金銭もどうなるか解らない、慣れ親しんだ地域からも、離れなければならない

水野：市民からはどのような声があり、それにどのように対応したか？
議員 市民に対して、説明のほかどのような支援をしているか？

市長：建物調査や建物移転の時期の調整や仮住まいや建物解体の事業者等の情報を提供、建物解体で隣接する「施行者管理用地」や「都市整備用地」を活用してもらうなど。

水野：金銭もどうなるか解らない、慣れ親しんだ地域からも離れなければならない。

議員：そういう事態が起こっているという認識はあるか？

公社の職員に心ないことを言われたと泣いて言われた。そういう声があることを公社の職員には伝えていますか？

石川：今ここで初めて聞いたので、伝えていない。

市長：私も地域で、権利者から「おまえ何やっているんだ、ふざけるなど、もっとチャント考えろ」との言葉を日常的に受けている、そういう時は説明し、コンタクトの場所にしていきたいと思っている。

— 反対の会コメント —

反対の会のニュースで住民の苦しみや公社の暴言等を伝え、市長や各課に届けている。また石川部長や区画整理事務所に訴えているが、「知らない」と繰り返す、しらを切る。こんな人たちが区画整理事業を強行している。

地権者は、解体業者に対する話など、しなくてよいことをやらされる

水野：地権者に対して、交渉はICレコーダでも使いなさいと言いたいぐらいだ。

議員：このことは繰り返さないとは限らない。何故か、職員は時間が経てば異動する。

痛みを受ける人はそのまま。

地権者は、転居に伴う転校手続きや解体業者に対する話とか、何にもなかったら知らなくて、しなくて良いことをやらされる。

水野：2度の引っ越しの負担などを理由に、戻らないと決断された世帯数は？

市長：そのような内容の話の関係権利者からは、聞いていない。

— 反対の会コメント —

3月議会で、石川部長は「移転14軒中、仮住まいが9軒。この移転を契機に生活の拠点を定める人もいる」と答弁したが、移住者に聞いていないとは無責任だ。

水野：補助金の期限を理由に追い立てられた人の話を聞く。

橋本：移転に関する協議は、補助金のことを、期限を考える事なく協議を進めてい

課長：かなければいけないと考えている。

水野：金がない、財源もない。道を造るのは都の仕事、駅前の広場を造るのも都の仕事。都からのお金で用地買収をして進めれば、事業期間は30年かかるはずがない。買収方式だと地権者に不利益が生じるという説明だが、そういう方式に変えた時、どれだけの地権者が不利益を被るのか試算したことはあるか？

石川：ありません。

水野：状況が変われば実現性を見据えて、大胆に計画を見直すことが重要だ。

山崎陽一議員 区画整理撤回要求 45弾

山崎議員：平成29年度の移転交渉で地権者が圧力を感じたというが、公社職員に確認したか。今後はないと言えるか？

市長：市職員及び都市づくり公社職員が移転等を強要するようなことは決してなく、今後も引き続き、より丁寧な対応に努めていく。

山崎：市は、「補償の基準」を都は公開してないという事だが、情報公開で出てくる。羽村の場合も情報公開でやれば東京都と同じ扱いと考えてよいか。

石川：開示請求があった場合は示していく。

— 反対の会コメント —

「補償基準」は、情報公開請求をせずともオープンにして説明するのが当然だ。補償額に押印後、思わぬ出費に困った話をよく聞く。木1本にも、石にも大きさを細かく補償が決まっているが、いろいろな理由で、きちっと補償を貰えていない人もいと聞く。住民はいろいろな情報を得て、知っておくことが重要。

3・4・12号線の幅40mや2重構造。不透明なまま住民犠牲

市長：3・4・12号線の羽村大橋東詰交差点から新奥多摩街道までの区間は平成36年度を目途に、新奥多摩街道から東部踏切までの区間は平成43年度を目途に、用地空けと平面部の道路築造工事を行う計画。

山崎議員：東京都、西多摩建設事務所ではオーバブリッジを造るとは言っていない。最大幅40mの3・4・12号線の土地は、東京都から43億円のお金が出ている。その中で土地代が20数億円。ところが羽村市は住民の土地、減歩で造るといふ。であればこそ、それだけの広さが必要なのか、断面図やパースを作って住民に説明する必要がある。

それが示されない限り、今工事をやっているが、極めて不透明だ！

石川部長：将来管理者は東京都、都道になる。具体的な設計の段階になっていない。

山崎：羽村大橋から新奥多摩街道まで、立体部を含め、いつ出来るのかと聞いても、それは分からないと言う。分からないまま仕事をしている。いつ示せるのか？

石川：時期は明確に答えられないが、今後、立体が必要か否か、あるいは交通量等も調査をした中で、その立体の必要性などを検証をしていく必要があると思う。都市計画決定では立体計画になっているが、当面の間、暫定整備で平面で通す。

山崎：都市計画道路3・4・13号線（駅前道路）の整備は、何年度の計画か？

市長：駅前広場の用地空けは、概ね平成38年度から平成41年度を目途に、駅前広場との境界から新奥多摩街道までの間を概ね平成34年度から平成36年、新奥多摩街道からお寺坂を経て地区界までの間を平成43年度から平成45年度を目途に用地空けを完了させていく予定。

多くの市民に愛されている景勝地、(東小南側の)川崎西公園廃止！

西川議員：この公園は羽村市にとって軽便鉄道の出発点でもあり、歴史に残る場所と
思っている。本の中にも川崎西公園という言葉が残っている。残す事は可能か？
土木課長：公園の名前は、意見を聞きながら関係所管と調整しながら決定していく。

門間議員：川崎西公園は、周囲よりはかなり低い地域。廻りに桜があり非常に静かで良
い公園と思うが、周辺の樹木や地面の高さは、どの様になるのか？

渡辺課長：・宅地の使用が出来るよう進め、平成30年度は、桜などを含め大きいもので
15本ほど伐採予定。導水管通りは樹木9本を伐採する計画。
・導水管道路は、緩やかな勾配で多少上がる計画。また擁壁に取り囲まれた
街区に高さを合わせる関係で少し雑壇造成の形になる。
擁壁街区、導水管通りとゲートボール場は、ほぼ変わらない高さで計画。

山崎議員：28年に遠江坂周辺で伐採。また小学校の木も伐採した。何本伐採して何本植
栽したか？ 市民からの声はあったか？

渡辺：今迄に切った本数は、擁壁工事のための仮設道路築造で66本、東小学校の仮
設道路工事で57本を伐採。東小学校校庭に約100本を植栽した。

樹木、桜等の伐採問題について「市長への手紙」や盛土工事について、地域
から車の出入りや騒音・振動問題について要望が来ている。

門間：これから建物移転の調査になるという事だが、この区域の全員の方が区画整
理事業・街区形成について合意形成しているのか？

石川部長：建物は移転の合意を頂く。工事は必ずしも合意頂く性質のものではないが、
皆さんに合意頂く努力をしていく。だから全員が工事について「いいですよ」
と言っているものではない。

一市の30年度・31年度の計画や補償について知ろうー 市は「補償基準」等を知らせないまま、個別交渉で進めています

- 30年度移転は23棟で再築18棟、曳家5棟。31年度は27棟で再築21棟、曳家6棟を計画。
 - 都市づくり公社委託の補償費は約13億円。1棟あたりの平均は2千数百万円と答弁。
 - 「損失補償基準」では、木造建物再築の補償率は、築10年経過で89.4%、30年なら72%・・・。また樹木移転補償は、例えば高さ5m、周囲60cmなら23万円。仮住まいは1㎡あたり1500円で、現在の家屋が100㎡なら月15万円の家賃補償と出ている。
- *移転した権利者からは、思わぬ出費等で苦しいと聞きます。家屋調査や補償交渉
に対応するときは、情報を取り寄せ、知識を得ておく必要があります。

「補償基準」の資料は反対の会にありますので、ご連絡ください。

平成27年6月提訴の「事業計画変更取り消し裁判」について

住民・市民22名の「陳述書」を裁判所に提出しました。次回も提出します。

「おかしいことは、おかしい」と、みんなで声を上げ続けていきましょう！

